

開設 5 年を迎えた認知症予防に重きをおいた通所リハビリテーション の推移

平成 20 年 8 月～平成 24 年 10 月の比較を通して

村田智恵¹⁾ 大谷章仁²⁾ 松本祥平²⁾ 植田浩次²⁾ 井畑浩敏²⁾ 西 幸宏²⁾
宮島 千鳥²⁾ 谷 正人²⁾

1) ケアプランセンターわたなべ 2) 聖志会 渡辺病院

1. はじめに

平成 20 年 8 月から前頭葉の活性化に重きをおいた通所リハビリテーションを開設し、本年は、当学会において、利用者群と非利用者群の間に認知機能低下に有意な差をみとめたと報告する予定である。今回我々は、開設 5 年経過したこともあり、認知症予防に実際参加した利用者の傾向を知るため、認知機能、主病名、利用継続期間、継続率を集積分析したので若干の考察を加え報告したい。

2. 対象と方法

対象は、平成 20 年 8 月から平成 24 年 10 月まで、通所リハビリテーションに 1 回以上参加された利用者 125 名で、方法は、利用開始時の年齢、性別、HDS-R、主病名、紹介経路、現在の利用状況をリハビリテーション記録から調査した。

3. 倫理的配慮

研究の趣旨を当院倫理委員会に申請し、許可を取得、調査において、個人情報と同定されないように留意した。

4. 結果

対象 125 名中、有効なデータを収集できたものは 115 名(男性 48 名、女性 77 名)であった。新規利用者開始者は平成 20 年 8 月から、年間 13 名、19 名、31 名、

30 名、22 名と推移しており、現在利用継続者は 67 名である。利用開始時の平均 HDS-R は 19.4 であり、15 点以上が 93 名であった。開始時の主病名は、MCI: 14 名、AD: 71 名、VD: 7 名、混合型: 13 名、DLB: 4 名、うつ病: 3 名、外傷: 2 名、コルサコフ症候群: 1 名、異常認めず: 1 名であった。開始時の年齢は、78.1 才であった。中断者の 58 名中 41 名が 1 年以内の利用であった。中断者の HDS-R は、19.0 継続者は 19.8 であった。利用継続率は 58% であった。また、紹介経路は、当院物忘れ外来から 76 名、介護支援専門員から 39 名であった。

5. 考察

当院の認知症予防に参加するのは、初期 AD の方の参加がほとんどであり、脳血管障害を有する方は少ない。一旦参加されると、半数以上の方が、継続していることがわかった。また過去 5 年間、新規利用者、継続利用者も一定数あることから、地域への認知度もあると思われる。